



DENTAL CARE

意外と知らない歯科知識

未知なる臓器「口腔」

口腔内の疾患はさまざまな全身疾患と関連しており、口腔の健康状態は全身的な健康状態と密接な関連があります。口腔の可能性について赤木先生に話を聞きました。

この先生に聞きました!



赤木歯科 赤木 営院長
歯学博士。1984年赤木歯科開設。39年前からインプラント治療を行う。米インプラント学会アソシエイトフェロー、日本口腔インプラント学会認定専門医・指導医。歯科医師臨床研修指導医。再生医療認可施設。

粘膜組織と免疫システム

前号では、歯ブラシだけでは防げない虫歯菌、歯周病菌の細菌感染による「口腔内病」の予防法として、細菌の住みか（プラーク）を取り除く「ブラークコントロール」の重要性についてお伝えしました。代表的な口腔内の疾患として、虫歯や歯周病が取り上げられますが、細菌の遺伝子レベルによる研究によって、口腔内細菌が全

身の疾患の原因となることや、その症状を悪化させる一因となっていることが明らかになってきました。それだけではなく、口腔のような粘膜組織には、独自の免疫システムがあることも分かっています。

は、ウイルスや病原体、花粉などの異物の侵入を防ぎ、さまざまな感染症やアレルギー反応を防いでくれます。また、口腔粘膜を利用した花粉症などの免疫療法（舌下免疫療法）も一般的になりました。その他、認知症やアルツハイマー型認知症だけでなく、記憶に深く関与する脳の組織（例えば海馬など）の神経幹細胞を回復させるサイトカイン療法においても、口腔粘膜を利用し大きな治療効果をあげることに成功しています。

口腔は、歯と歯茎に意識が向きますが、舌や唾液腺の開口部を含む口腔粘膜や鼻や喉と接しており、さまざまな可能性を持つ臓器として捉えられるようになりました。その機械的機能と生理的機能の果たす役割は、未知の部分が多く残されています。口腔粘膜を利用したサイトカイン療法や認知症の予防や治療など、多くの可能性を感じられます。次号では、口腔内細菌と細菌バランス、健康との関係について考えてみたいと思います。

免疫に関する

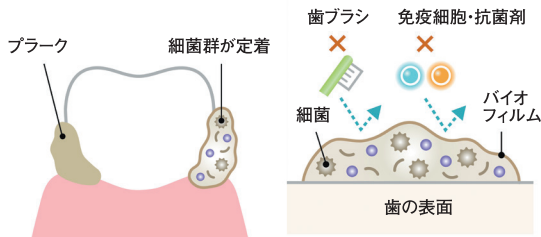
粘膜組織の可能性

ここで粘膜組織の役割についていくつかご紹介します。目や鼻、口、腸管などの粘膜組織で

いて「粘膜投与型ワクチン」が次世代ワクチンとして期待されています。注射型のワクチンでは、重症化の予防効果は期待できませんが、感染防御効果は大きく期待できませんが、経鼻粘膜投与型ワクチンは、感染の防御と重篤化予防の二面性を兼ね備える次世代ワクチンとして期待されています。

口腔は、歯と歯茎に意識が向きますが、舌や唾液腺の開口部を含む口腔粘膜や鼻や喉と接しており、さまざまな可能性を持つ臓器として捉えられるようになりました。その機械的機能と生理的機能の果たす役割は、未知の部分が多く残されています。口腔粘膜を利用したサイトカイン療法や認知症の予防や治療など、多くの可能性を感じられます。次号では、口腔内細菌と細菌バランス、健康との関係について考えてみたいと思います。

歯垢とは



「プラーク」は、微生物の塊のことです。食べかすが細菌の栄養源となるために、食後に発生します。そのプラークが口腔内に長時間留まって膜のようになったものが「バイオフィーム」です。歯垢は食後の歯みがきで取り除くことができますが、膜のようになって歯に付着しているバイオフィームの状態になると、歯科医院のクリーニングでないと取り除くのが難しくなります。

医療法人 貴志会
赤木歯科

再生医療認可施設

高槻市高槻町 7-5

※2022年12/1から2年間、
仮診療所で診療しています。
仮診療所:高槻市高槻町 2-11-3F

☎072-682-0190

<https://www.akagi-implant.com/>